

# 2018GW玄海仮屋・平戸・鷹島クルージング航海記

## <その2>

全日程：4月26日～5月6日（10泊11日）

全工程： 海里（最短距離計測）

参加者日程：4月26日～5月6日 渡海・山本・佐竹

4月27日～5月6日 杉山

5月3日～5月6日 平田

日 程（復路 楽しみにしていた鷹島「海上屋台 三軒屋」が休業中で大幅に予定が変更となったが、結果的には強風避難<岩屋漁港>がホームポートに帰る日程・距離がぎりぎりなのと、美味しい思い出と、気持ちよい露天風呂で極楽、極楽）

- 第 1 日目 4月26日（木） 廿日市港 ～58M～ 姫島稻積港
- 第 2 日目 4月27日（金） 姫島稻積港 ～41M～ 関門東口 ～23M～ 岩屋漁港  
(杉山 乗船 広島駅よりJR及びタクシーにて22:30)
- 第 3 日目 4月28日（土） 岩屋漁港 ～55M～ 玄海仮屋港
- 第 4 日目 4月29日（日） 玄海仮屋港 ～18M～ 平戸 田平港～1.3M～平戸港
- 第 5 日目 4月30日（月） 平戸港～12M～鷹島阿翁浦免港～12M～名護屋港～1M～呼子港
- 第 6 日目 5月1日（火） 呼子港停泊・名護屋城跡及び名護屋博物館見学
- 第 7 日目 5月2日（水） 呼子港 ～46M～ 筑前あしや海の駅 2.3M～ 岩屋漁港
- 第 8 日目 5月3日（木） 岩屋漁港停泊（強風の回復待機）  
(平田 乗船 五日市～広島駅よりJR及びタクシーにて16:30)
- 第 9 日目 5月4日（金） 岩屋漁港停泊（強風の回復待機）
- 第 10 日目 5月5日（土） 岩屋漁港 ～～ 室津港
- 第 11 日目 5月6日（日） 室津港 ～36M～ 廿日市港

全 航 程（往路：赤線— 復路：緑線—）



4月30日 第5日目

レポーター：佐竹

天候：晴れ後時々小雨 風：西の風 1m 波高：0、2 南の風 2～4m  
平戸～13M～鷹島 阿翁浦免港～12M～名護屋港～1M～呼子港

メンバー：渡海・山本・佐竹・杉山

#### 本日の朝食



0900 平戸港 出航 本日は鷹島までの 13 マイルのクルージング、横着してメインセールも揚げずにエンジンとジブセールのみで走る。それでも 7～8 ノットで走り、予定通り入港、昨年留めた場所に係留し、すかさず山本君が海上屋台「三軒家」を偵察するが貼り紙がして有り ‘ 休みではないかね ‘ と言うと、杉山君が早速お店に電話、電話に出られたお店の主人の話によると、調理人が病気になり主人も片腕が上がらないとの事で、当分休みますとの話である。残念、無念！明日は資料館にて蒙古来襲の時、神風が吹いて沈没した船など見学する予定であったが、海上屋台「三軒屋」が休み

と聞いてがっくりし、多数決でここは飛ばそうということに成り、急遽予定を変更して名護屋博物館に向かう事にした。

1400 呼子大橋を左手に見ながら南奥の名護屋港入港、何とか空きを見つけ係留して名護屋城博物館に向かい始めるが、杉山君のスマホ道案内が、本日はもしかしたら休みかもの「メッセージ」が表示される。博物館のホームページを調べると矢張り休み、もー・・・何もかも付いていないのです。やっぱり仕事をしている<欽也>の呪いか！また 仕方なく移動、呼子大橋をくぐり抜け目と鼻の先の呼子は台場前の船溜り岸壁に係留し、夕方から台場の湯に入りに行った。

呼子港東口にある船溜り



ここ 台場の湯は自分たちのヨットを見ながら湯船に浸かれるのが魅力である。

台場の湯前の「イカ釣り漁船」



小浴槽に浸かる山本・佐竹



本日の夕食



5月1日（月） 第6日目

レポーター：佐竹

天候：晴れ 風：2～3m

0900 町内巡回バスを利用して「台場の湯」前から「名護屋城博物館」に向かうが、マイクロバスなので直ぐに満員になり町外者の我々はチョット気兼ねしたが、おばちゃん達は親切に色々教えてくださった。バスが止まった場所は博物館から少し離れた場所で、豊臣秀吉が朝鮮遠征の時に築いた城跡を通り、散策しながら古の夢の跡を偲んでみた。この名護屋城跡の周りには徳川家康、九鬼嘉隆、福島正則、加藤清正、前田利家、真田信幸などの陣屋が囲んでいたようである。博物館に来てみると、何だか以前来たことが有る様だ

と皆で思い出し、クルージング計画をした人に非難の目が……が　しかし以前見て覚えていたものと、新たに発見した物もあった。今回は以前に比べてゆっくりと見学できたので良かったと思った。

名護屋城の石垣



苔むした石垣



名護屋城博物館



「名護屋城博物館」からタクシーで帰りに途下車し、スーパーで食料品の買い物、必須品の「神の河」が二本しか在庫が無く、残りのクルージングで買うところなく残念！　ここからは船溜まりまで呼子港やイカの干してあるのを左に見ながら、てくてく歩く。ヨットを係留してある船溜まり「台場の湯」横にイカの活造りの「河太郎」が有るが、また<欽也の崇り>が有っては敵わないので我慢、我慢して「海の駅」にて 生イカの干物、背景は呼子大橋



イカの刺身とクジラの刺身



け簀のイカの大きいのを購入して刺し身にしてもらった。50cmくらいあったと思うが、調味料 200 円を入れて 2400 円で安い。今夜はイカの刺身と、クジラの刺身で一杯。

5月2日（火） 第7日目

天候：雨 風：南西の風 3m

呼子～46M～かしわばら漁港「筑前あしや海の駅」～2.3M～岩屋漁港

レポーター：杉山

メンバー：渡海・山本・佐竹・杉山

0000 呼子出航 途中から大雨で海面が梨地模様、視界も 1～2 マイルに落ち少々怖い思いをした時もあった。

筑前あしや海の駅入港、入港前に漁港に連絡して係留場所を教えてください。

結局事務員さんに雨の中、親切に出迎えてもらった。ここ柏原漁港は浚渫工事中とかで係留泊が出来ないので、「海の駅」で食事後は来る時に入港した岩屋漁港にゆくことにした。



「筑前あしや海の駅」



メニューに有った「雲丹」も「蟹」も入荷が無かったなので、しかたなく海鮮丼を注文。感動するほどではないが、そこそこおいしかった。お腹もいっぱいになり出港。港を出てしばらくして測深器の 3m 喚起ブザー音が鳴り、ゴンッ！　ゴンッ！　ゴンッ！と岩に当たり 3 回めで

大雨で視界が悪いが風がないので大助かり

停まってしまった。前方がどうなっているのか判らないので、後進することにし海底を注視ながらゴースタンを掛け<そろりそろり>と何とかうまく抜け出せた。キールだけでなくラダーにも当たったかと思っただが、バックする時に舵が重くなった様子はないので、ラダーは無事と判断し、キール周りの浸水がないかと、床板を開けてキール周りとビルジ量の確認をしたが、大丈夫のようである。これも<欽也の呪い>だろうか？このあたりは特にブイもポールもないので要注意である。なんとか無事に岩屋漁港に入港。

夜は居酒屋メニューでズルズル・ダラダラと自堕落な夜が更けていく・・・・・・・・

0230 ごろ渡海さんがごそごそして目が覚めた。風が吹き上がって来たので増し舳をするとのこと。

夜中に西風が強くなり、増し舳を施してから寝直した。 恐るべし<欽也の呪い>！

5月03日 (水) 第8日目

レポーター：杉山

天候：曇り時々雨 風：13m

メンバー：渡海・山本・佐竹・杉山

強風の為、今日の出航は中止とした。すぐ近くの妙見埼灯台の海上保安庁の現況発表によると 18m/sec の風となっている。

昨日は風呂に入れなかったが、すぐそばの「かんぽの宿北九州」に入浴へ。夜は宿泊者しか入浴できないが、11:00～14:00 までなら、宿泊者以外も風呂の利用が可能。600 円で入浴できる。露天風呂もあり、内湯は大きな浴槽が2つもある、かなりゆったりした良いお風呂でした。



なんといってもすぐ外が海という最高のロケーションです。しかし露天風呂はブローで湯面にさざ波が立ち、頭が風に煽られるにはビックリ！

夕方近く欽也が私と同じ経路で、広島から小倉まで新幹線で、急行電車で折尾までと、港までタクシーで乗り継ぎ乗船、歓迎会を行う。もうこれで、<欽也の呪い>は解けたかな？



「かんぽの宿北九州」

5月4日 (木) 第9日目

レポーター：杉山

天候：曇り時々雨 風：14～16m

メンバー：渡海・山本・佐竹・杉山・平田

<欽也の呪い>が強すぎて、本人が乗船したにも関わらず、本日も強風の為と連休の残り日数が未だ有るので、出航を見合わせ。映画鑑賞会となった。昼前より「かんぽの宿 北九州」にて入浴とレストランで「イ

「かんぽの宿」露天風呂



カの活造り」や「雲丹の刺

し身」を美味しく腹一杯？頂いた。活造りの後は、ゲソとエンペラを天ぷらにしてもらおう。一杯が 3500 円くらいだったかな？

「かんぽの宿」露天風呂



「イカの活造り」と「雲丹の刺身」



欽也がイカを食べていなかったのと、イカの活造りの職があったのでレストランに入ったが、なかなかおいしかった。もう観光客でごった返した呼子で食べなくても、ここで十分かと思う。船に戻って、昼からパジャマに着替え、映画鑑賞しながら、ダラダラと飲む。あ～～、GWクルーズ最高！！

5月5日（土） 第10日目  
天候：晴れ 風：北西の風 6m  
岩屋漁港～78.5M～室津港

レポーター：平田

メンバー：渡海・山本・佐竹・杉山・平田

響灘の夜明け



5月3日に新幹線と特急ソニックに乗って意気揚々とやってきたものの、岩屋漁港で二日間過ごすことに。ゼーフエーラーはその前日に入港しているので、足かけ3泊4日岩屋漁港で停泊していることになる。さすがに本日は出航したいとの願いが叶い、昨日までの強風が嘘のように穏やかになったが、まだ少しうねりが残っている。出航予定0630を皆さん待ちかねていたのか、そそくさと0550岩屋漁港を出航、昨日までの強風の名残のうねりが港の出口を塞ぐように横切っている。昨日漁師に聞いた港の出口は<浅いぞ>の話の通り、うねりの谷では測深器の3m警報が鳴り響いた。港沖から響灘

を東南東に進路をとり、つれ潮と追い風にも恵まれ、快調に7ノット超えの機帆走。久しぶりに参加したクルージング、合流3日目でやっとラットを握ることができ堪能する。

本日の目標は姫島への入港。0700 関門海峡西口進入 潮流 E6 ノット。

船上の楽しい昼食

順調に潮に乗ることができ、0800 関門海峡東口通過 潮流 E5 ノット。あっという間に瀬戸内海に入った。朝食は、杉山くんが豚バラ肉のマーマレード煮込みをバケット挟んだサンドイッチを作ってくれた。美味しくいただき、朝からワインが飲みたくなる。これが昨日までの天候だったらと思うと・・・。



瀬戸内海に入るとべた風状態になるが、タイミングよくつれ潮が続くので、寄港目標変更！宇部沖あたりで、進路を真東に変え室津港へ向かう。このまま順調に行くと日没前の1830に入港予定。暫く島影が無い状態で退屈になるが、久しぶりの貴重なクルージングなのでラットは握ったまま。昼食が待ち遠しい。と想像していたら、シャンパンとともに、杉山シェフが得意のスパゲッティが登場！渡海さんはお代わりした。これだからクルージングは止められない。

牛島の北を通過し、佐合島と長島の間を抜け、予定より1時間早く1730室津港に入港。今日は一日ラットを離さなかった。名ヘルムスマンのお陰だと皆さんに感謝を強要する。1815 明るい内に鳩子の湯に浸ることができ、船に帰ってプシュ！冷たいビールで乾杯。四日ぶりに違う港で、毎日かかしていない最後の宴会がスタートした。結局どこでもいいのか？

室津港係留風景



室津港の夕食



5月6日(日) 第11日目

天候:晴れ 風:ほぼ無風

室津~36M~廿日市港

レポーター:平田

メンバー:渡海・山本・佐竹・杉山・平田

0600 朝起きると昨日係留していた4艇のヨットが慌ただしく次々に出航している。連休最終日となる今日の天候は、雨に変わる予報。我が艇は、ここまで帰って来たらもう安心。朝食は、炊きたてのご飯で和定食。味噌汁、タラコ、ノリ、シラス、卵焼き、塩コブなど、ザ・日本の朝ご飯。渡海さんは、ごはんも味噌汁も思わずお代わりしていた。出航前はこうでなくちゃ!

お腹も満たされ、0720 室津港を出航し、大島の瀬戸へ向かう。昨日一日ラットを握って満足したので、今日はキャビンでのんびりクルージングを楽しむことに決めた。朝からワインをちびちびやりながら、音楽を楽しんでいたらいつの間にか・・・ZuZu。これもザ・クルージングの楽しみ方。目が覚めたらとっくに大島の瀬戸を通過 0849 しており、正面には甲島が見える。あーもう少しで着いちゃう。寝るなんてもったいないことをしてしまった。合流参加した四日間のクルージングで、海に出たのはたった1日半! そうこうしていると、雲が下がって来て今にも雨が落ちそうになってきた。残念だが、船内の片付けをスタート。

杉山くんが作ってくれた昼食を、クルージング最後の食事と慮り、ビールとともに堪能する。見慣れた景色になるにつれ、いつもの生活モードが戻って行く。「次のクルージングを糧に明日から頑張ろう」そう自分に言い聞かせながら 1330 母港に帰着。雨がひどくなる前に帰宅することができました。

出航、11時方向に見えるのは上関大橋



### <後期高齢者の呟き>

今回のクルージングは、帰路に北九州市は「岩屋漁港」に停泊中、強風で足止めを食った2日間と、「呼子港」から「筑前あしや海の駅」に来る途中に大雨に降られた以外は、太陽に恵まれ、ギリギリと歯を食いしばる様な海況もなく、楽旅であった。また 外食、船内食共に美味しいものを一杯食べさせて貰い、また一つ楽しい思い出(冥土の土産! いつまで乗る積りかい!)ができた。 感謝、感謝!